周 易 傳 義 補 疑

おない日人をおいるへし 内等近人生成長を助出しかけに同じ 全大以於自直的於認有 王俊又大万元 上六五 同人于野亨利涉大川利君子貞六二 周易傳義補疑卷之三 三 乾離上下 方否必與人同力乃能濟同人所以次否也 道則聖賢大公之心也于野謂不以雖近情之所私而 傳野謂曠野取遠與外之義夫同人者以天下大同之 傳物不可以終否故受之以同人夫天地不交則爲否 上下相同則為同人同人與否義相反故相次又世之 -後學丹陽姜 質樣註—門人————

お人しのおんかだった えまのくて されいふごう 的母如同井井信何是 がるようすた日を持いる 直場明寺を大吹き」 了台及る今四具、行為 年るからればさのるで あや田民る父のまとん 五万年多五五日五五天 竹巻んや 上久 そらかの大野や 九八五百世都的一片手 するりしいらるといせん 人 有具不美 于郊野曠遠之地无遠不同也其可知能與天下太 危之不可亨故利涉大川利君子貞君子貞謂天下至 者雖是亦異其所同為阿黨盖其心不正也故同人之 道利在君子之月正〇本義離亦三畫卦之名一陰麗 同是天下皆同之也天下皆同何險阻之不可濟何艱 於二陽之間故其德為麗為文明其象為火為日為電 而上應九五又卦唯一除而五陽同與之故為同人于 同人與人同也以離遇乾火上同於天六二得位得中 公大同之道小人惟用其私意所比者雖非亦同所惡 野調曠遠而无私也有亨道矣以健而行故能涉川為

歸之何險不濟故利涉大川然則當无所不同乎曰不 然利在君子以正道相同而己〇胡氏炳文曰君子周 貞也○誠務同乎人者公而大則天下歸之故亨天下 陰所比而坎陽居五為得其正故曰元永貞是其此 卦內文明而外剛健六二中正而有應則君子之道也 必須寬廣无所不同用心无私乃得亨通與人同心足 而不比和而不同而卦名曰比曰同盖比以一陽為東 以涉難故日利涉大川與人和同易涉邪僻故利君子 占者能如是則亨而又可涉險然必其所同合於君子 と道乃為利也○孔類達云野喻其廣遠言和同於人

爲心者也故為同人于野之象于野謂曠遠而无私也 能克巴盡大同之道身優大中至正之道而上應乾元 所同之人以乾剛之道行之尚何不濟之有故曰利涉 夫既大同无私則足以致人之親輔來人之信從可久 陰居二為得其正故曰利君子貞是其同也即所以為 即所以為君子之周也同人以一陰為五陽所同而離 大川以卦才言之文明則能燭理明大同之義剛健則 君子之和也〇葉良琳云同人以休否為志思天下有 可太有亨道美药如是而值有險阻間隔於其間則與 一物不得其所若已推而納諸溝中此以天下之大同

四五九分分不上第一言君子之正道也唯君子為能通天下之志 えるしらせや 的位为男子以中区为由人 四日中北京中人一同人于野亨利沙大川乾行也惟是剛徒之人方會出外 果子要并对出口手的200 九リニコロマテ 野豚此北近 在天 050 m是 100 表目同人柔得位得中而應乎乾目同人就及好事生活力 行以内的日本の連 れらてえれしいい同代の 是我不是我的一面自无不同者美故日利君子真人是我不是我的人 · 一 同人日 本義以卦體釋卦名義柔謂六二乾謂九五 傳至誠无私可以陷險難者乾之行也无私天德也有 本義衍文 无私之德由是推之四海之廣兆民之以盖有不期同

をまるかり 一日地 安王で野時 力をかられれていないは あて放いる子女切られた 百分花を残するるの 1四分有工術を公面と 花子直ででした丁兄方す 象曰天與火同人君子以類族人辨物物 正者感而通不正者化而通馬 醉通天下之志乃為大同不然則是私情之合而已何 燭理故能明大同之義剛健則能克巴故能盡大同之志聖人視億兆之人猶一心者通於理而已文明則能 文明之德而剛健以中正之道相應乃君子之正道也 且天下之志萬殊而理則一君子明理故能通天下之 傳就類族上科物未然○本義天在上而火炎上其性 道然後能中正合乎乾行也〇本義以卦德卦體釋卦 以致亨而利涉哉〇誠蘇君子以正相同則天下之志

する日人れないたらかにろん 旧人いなけれのかりや おかでもみてでなかえなる 五子外中の一十九万円八十子 不明らか何と言き上大が 五枝能倒以少人多食与有 全印力及是 西击公 ·万不伤伤之办纪又承判扶 老者每百割不本品牌之記以 為毛物蘇介之生為蘇介之物此辨物也 其所同異中之同也火之所及凡物均照法離明之有 之族為工商此類族也螺生為螺物羽生為羽物毛生 奇之曰族如非此族也不在 祀典之族物如是其生也 與吾同物如士大夫之族為士大夫農之族為農工商 别者於均照之物而辨析其所異同中之異也〇馮氏 所生各族殊分法乾覆之无私者於殊分之族而類聚 同也類族辨物所以審異而致同也〇吳氏登曰天之

年 \$10人知道·张 寒日出門同人又谁谷也必出門然後无格若于宗則門 お出作の人しないとろうと 教子子司与向此上有 いのかになからいいかのと · 傳記人的書為一傳九居同人之初而无緊應是无偏私同人之公者也 的是我以外的时间成一六一同人于宗春家日同人于宗春道也出了了更多多大 不好多風好,在出五 アカモラアボウめてたのち、 おけ芸養からから内受し我一 雷比日间一年 九上社了是五 が在地を在らるいのるは 分人をはまるがないる立 我一記再雲 おも 本二文作まれるかけれい 博而公如此則无過咎也象言又誰咎者人之同有厚 谷故其象占如此 本義同人之初未有私主以剛在下上无緊應可以无 薄親疎之異過谷所由生也既无所偏黨誰其咎之〇 故為出門同人出門謂在外在外則无私呢之偏其同 傅二與五為正應故曰同人于宗宗謂宗黨也同於所

をおけるとはないの人」またあれて大年をという

唐佑《养起于京后中国一不興五終不可敬故也 すまれるはらるまなかり十二年北北のサイ はしまるよいて上れ お七代山水へいむるとはしょうい なせれっていやきなんニー 及小地原及了这此二十七 人民子亲四个 宛石 上升至五 ずのアンダーがられまし かんようラウは、かんナ野のシー はるなるとあいせいかったと をなてれば川太上大きれ 考えて生まほし向以出た そうすでを二生、ひこしゅんろ 野球あいされが成べてかりかいた 九三伏戎于恭以何五之附升其高陵以窺二之動三歲 與五同所同者私徒而不公處所以各堂學之法 於私各之道也故其象占如此此及衆陽之所與而獨 奪而同之然理不直義不勝故不敢顕發伏藏祭 找於 然二以中正之道與五相應三以剛强居二五之間欲 志在於同卦唯一陰諸陽之志皆欲同之三又與之比 傳三以陽居剛而不得中是剛暴之人也在同人之時 義宗黨也六二雖中且正然有應於上不能大同而係 係應是有所偏與在同人之道為私俠失故可各〇木

上少る好が教養と三百子た 聖李四大我子養出班二位百 图 在前9三成 出たというでよりながる 我 安臣公在大人次右庭 成在堂文 安全是計不為其被長四天 のかてるはいだであ 万屋するとまれるしたいか 外部門二古記は三れ居于だ 常此即B.从戎于荐宿/亳 日本本 多野谷 不成るも お犬町三三名石供り矢 象曰伏戎于葬敵剛 也三歲不與安何行也 状然不曰凶者既不敢發故未至凶也〇本義剛而不 林莽之中懷惡而內負不直故又畏懼時升高陵以顧 此象〇隆山李氏舜臣日卦以同為義而三伏戎四乗 望如此至於三歲之义終不敢與此文深見小人之情 A LANGE CONTRACTOR 所以争夫出而與人同至易至簡之事而乃如此故易 **墉五大師克盖天下之理萃則必争二應五而三據之** 中上无正應欲同於二而非其正懼九五之見攻故有 中必知為一日中必知阻不學見者殆不可以涉世也 本義言不能行

在一五四八個官人一口於 ひょれこんのな 国が住在するとびいべいあえら 中一個展二十四三石石度 しませないをいし ひら あるなみがみなってもし 大五人的子以今的D\$\$ 要是是是人人多一象曰来其庸義弗克也其吉則因而反則也 ·展入四年五十岁,云佑弟 政ニヤ三題五し歌二あるの 義不直而不克也尚能自知義之不直而不攻則為吉 所以限隔也四切近於五如隔壩耳乗其壩欲攻之知 傅四刷而不中正其志欲同二亦與五為仇者也構垣 攻之象占者如是則是能改過而得古也 隔故為乗墉以攻之象然以剛居柔故有自反而不克 有因而能及之義能反則吉矣畏義而能改其吉宜矣 〇本義剛不中正又无應與亦欲同於六二而為三所 也三以剛居剛故終恃其强而不能反四以剛居柔故

不行者のこしかち後から

多多%。\$P\$ 九五同人先號此而後笑大師克相遇 任至の疑めお今年移行後 内の方文不平山安里去は いのはまれたるかかのる 惟耳之,于如天性言為大匹 同時名水田村西西大野田 あててした正とする 好きまゆとられけれた 井三日もみをらるのは数 加口是在出子好外在文文 日四之乗墉方萌窺何之意而三之伏我已見爭奪在 傳九五同於二而為三四二陽所隔五自以義直理緣 之不敵而不敢爭况四之所欲攻者三三臣位同人之 又不作馬此四之吉所以異乎三之不與也 冠也三之欲敵者五五君位同人之主也其逆順之勢 本義乘其壩矣則非其力之不足也特以義之弗克而 形矣四之反則則知義之不勝而止而三之不與則畏勢 故不勝價抑至於號咷然那不勝正雖為所隔終必得 不改耳能以義斷困而反於法則故言也〇丘氏行可

おからしも 中立不平安子の正 段美しなや なしまるまでをながれる 之段 安大·公治·治·治·日·一家日同人之先以中直也大師相遇言相克也能勝二陽 用人一先句为此次子中天典祖 えかは大好克な正良のり了! お重大なも 至本方於家性死上九同人于郊无梅近而不相得則乎如此卦之初二上 山川」也国次、在本月主 出港以在中地以外至對極 一即移而人生に言るなるな 見る情表神教が上し 本義直謂理直作二五之同為理直則三四之爭同非 合故後笑也大師克相遇五與二正應的二陽非理隔 理矣 陽之强也○本義五剛中正二以柔中正相應於下同 而間之故有此象 心者也而為三四所隔不得其同然義理所同物不得 奪必用大師克勝之乃得相遇也 云大師云克者見二

すいかいく はまんれる ひろゆ

するお等人であるのはい **はは以太人。は大子の不及て** 子大四年都是天百日日之 人女爪义不同 生三司今好是在大多人各在事外不相干涉所以无乎无乎故无咎亦无悔也! 象日同人于郊志未得也无可同之人故也 傳郊在外而遠之地求问者心相親相與上九居外而 丘氏行可曰上九處同人之世豈不欲與人同哉特以 於曠遠但荒僻无與同耳 同之志不遂而其終无所悔也〇本義居外无應物莫 剧不奪不厭而已適處於无可與同之地起然出於群 與同然亦可以无悔故其象占如此郊在野之内未至 无應終无與同者也遠而无與故雖无同亦无悔雖欲 **卦五陽皆欲同二而三伏戎四乗塘五用師相刃相**

新任山的水文不主人也士 おれはこれないる あえせらい 借工内指揮在我特色を 在七七日日日 九五年 いて不ち存けるべしだれや 佐子とき人住び歩と四日 四高江代界前落一與其為初之比而同不若五之應而同者之出於正與 我省份學是由於在新日上 小小さるなはほどませしかな 世界でいるが中のほろ はのならいっつきまるとう 不大かられたちことはち 1日二六世末的七十五~ 你作为四年也有不同る心女本 四有四三元四女付不在徒卷 したらは出りらしのも考 明めず状情経な、主を 二與五應以正道相同在二言子宗五言相遇此應而 爭而不能同者同人之道難矣战然則世之與人同者 校人者病之故又曰志未得也〇丘氏行可又曰此卦 争之表於人固无所失矣而於已亦未為得也尚公於 爻以不異於人者甚之故云无悔孔子於象以不能同 此遠而无與同者三四分手二五之間與五爭二而不 知天理之同物莫能問故三伏或不興四乗塘那克此 同者初在卦下出即遇二无爭於五故同人於門此比 而同者上處計外无應於五亦无得於二故同人于郊

メロショの人二古でルなみ

猪手指开印如百尺在马 作者別人に以下のする方は 如之人大路以及西京教徒 知る人代こ からないけんのはおれるす 九四种不大中 出海をは大く父が名なる 伊上拜出 专小将天子子中 第100名·李·李·李·李· 亨也〇本義大有所有之大也離居乾上火在天上无 物以中子八里至いうてれては |なしり方るかのおのチハダー 九字四王中正用彼以识山在 とした松子传道では、七左一切春 大有元亨 一一一 乾 下水口无数 2万里去于下生之上四大省以四万大也 无所爭也 傳針之才可以元亨也由剛健文明應天時行故能元 之所歸也大有所以次同人也大有盛大豐有也 傳與人同者物必歸馬故受之以大有夫與人同者物 所不照又六五一陰居尊得中而五陽應之故為大有 乾健離明居尊應天有亨之道占者有其德則大善而

ぬほろるはずわせる次大がの 北久 内るしかえずも犯りばたらえ 日後天七七七大招為五天成 唐中岛大主义的方法其德刚健而文明應乎天而時行是以元亨已解上與思路四本自己的下京了 然謂六五上下謂五陽四年以为日人了五年中五天五五百年的日本的人之五年中 おは神子に記なるなする なしたねやゆとまこの用处住 福季華寶四年等 處中得大中之道也為諸陽所宗上下應之也夫居尊 村部方面的里於公司至在 正以文公子在学子后心里遇 天は出た中午 天之在古の文 とといるからでいたはかりかりとという 手をすめて不様大い一只比を 中有ななはいかないといほろ 傳言計之所以為大有也五以陰居君位柔得尊位也 亨也○丘氏行可曰一陰在上卦之中而五陽宗之屋 哉唯其所有者大故其亨亦大也 尊能柔物之所與而諸文之有皆六五之有也豈不太 執兵固衆之所歸也而又有虚中文明大中之德故上 下同志應之所以為大有也〇本義以卦體釋卦名義 いるないと

保るちゃえきて ·鲁男在了多了这是象门火在天上大有君子以遏恶扬善順天休命 大れいものですった 作るいたてかちの方とう 在出手住 言又以住就了不之 したスタキリスタのはなな ちゅれからされいたとはいれ 以表完经系以恶完经三二 後は正面を打しみる子内 女の強て切りなる 并在中国是是海人作成也 下榜本京四千件美部 さえんまる水水では本地 める你去るなるられる 人なるのはるだっとろれる 此是以元亨也〇本義以卦德卦體釋卦解應天指六 治之則學孽萌於其間矣天命有善而无惡故過惡揚 本義火在 天上所照者廣為大有之象所有旣大无以 若所以順天及之於身亦若是而已矣〇遇惡即所以 五也 傳五之性柔順而明能順應平、九之主也是應乎乾 也順應乾行順乎天時也故曰應乎天而時行其德如 之於身則是以為性命之命恐未然 楊善過惡以楊善即所以奉順上天休美之命本義友

· 有人不不多多的事一九二大車一以載五有攸往无谷大臣任天下之重而便 九西、安左理人要以 る大百二十七九光段る大多 老天八七一人作品以此五 かいまして事部し」と回れ おおダースをせずらるです 子自不正不わせれなり 不管不存在的大事女孩事 必降者了差於移私多一得无咎處大有之難如此 司易事長南港 人工艺一人 本義雖當大有之時然以陽居下上无緊應而在事初 未涉乎害者也何谷之有然亦必難以處之則无谷成 本義剛中在下得應乎上為大車以載之象有所往而 大有之初如此艱則无谷大有自初至終皆當如此也 時不易有害然初陽在下未與物接所以未涉於害何 占者宜如是也〇胡氏炳文日富者然之府當大有之 谷之有使以為匪好而以易心處之反有好矣无交害

戶子引正文九切若小八以代·記 聖子様大しんには世宝は のは作るまでまる人者の 方子は打使取し気をなる一生し 失是公司大大的安气 おおるないるとこれでから 大大松田村指名はあれれる 金とをおけい気壮級歌丹 市川や様子えばした兵左 てしるあるするとを強大す 万かのお見いれは天大を丁 アの伊かんていし、すれる場 在以外人人人人 なするかれて下しますとる 超常五代俱治多人一二公用亨于天子小人弗克象曰公用亨于天子小人 象日大車以載多積於中而不致敗也言能任重 月 李作事并为 三十十 享京能之京皆作事字九三居下之上公侯之象剛而 本義亨春秋傳作享謂朝獻也占者亨通之亨事獻之 以中正心臣而當其重任者也循若大車之載持積於 得正上有六五之君虚中下野效為亨于天子之象占 其中雖任重而不致輕敗 旦日以剛健之才當大有之時發得中道應於六五是 如是可以无谷矣占者必有此德乃應其占也〇胡氏

大田二八大大大日本 聖公在在8个五年九四匪其彭能議損不處其太盛无处也到中心多以至人又为 香品等學家回匪其彭无谷明報指也言有明新哲之智知谷之将 以れますしろ、此なかで下三 きずおかですればんをナ からはかののりるであり 的心的一种通可恢复花 左至少臣或意記之 松電地以下年多二次之 到一天記れる谷地はなか 九三は後的まするかけれて 何は中国のころうなんそう ゆるをきず用せるな 茶中之君九四以剛近之有借個之嫌然以其處茶也 者有其德則其占如是小人无剛正之德則雖得此久 傳匪其彭則得无谷謂能無損不處其太盛則得无谷 有大君王以德業言先王以垂統言帝以主宰言天子 以正位言后天子諸侯通稱大君天子尊稱 故有不極其盛之象而得无咎戒占者宜如是也 也〇本義彭字音義未詳程傳曰盛貌理或當然六五 不能當也〇王介南曰易之解有王有先王有帝有后 1

りこえ本土は巨元成長 るまるれかあかしいれる 人、好同具以內使等級元不 門住者利成此至於難言 都至以有京心表於明報少 るかのんている山下、立人 一作用て見過三花子故此 おまなえるはしこうかかす 不見にはしておきてんたる古 川村のいいはまるで 是人的名词 玩玩完 拉说至 なるといなからしかとので いてのあなるとあるがき 七分子の日本部の五一至而然也 象日厥字交如信以發志也 六五厥子交如威如吉 善處有者也吉可知矣〇本義大有之世孫順而中以 傳哲明智也賢智之人明辨物理當其方盛則知咎之 占如此亦成節也 處尊位虚已以應九二之賢而上下歸之是其字信之 傅以和桑孚信接於下衆志說從又以威嚴使之有畏 将至故能損抑不敢至於滿極也〇本義哲明貌 交也然君道貴剛太桑則廢當以威濟之則吉故其象

りろいまなる状にみか

れるした しるけるじろえー 元からおすけいの大水い てあしてお人ないとことを 下をあるいては文であため 八面しる以上)文上をやわ みいるろがまではたる北上 府程を口便都を上分不及 上九自天祐之吉无不利聚日大有上吉自天祐也一一成之世所當請者也 威如之吉易而无情也 リーフライ でげを ツー・・・・ 本義大有之世以剛居上而能下從六五是能發信思 本義太柔則人将易之而无畏備之心〇西溪李氏李 陽副居上而能下從六五者盖陽從除也大有唯六五 順而尚賢也滿而不溢故其占如此〇朵子曰上九以 繞上下玩易則无畏備矣故詰爾戎兵董正治官皆守 辯曰太平之世禍亂皆起於无虞故必威如而後吉 本養一人之信足以發上下之志也

るりはなまんるのまと 紀の名であちかてれて 立たするないのでするの が平をのかる上れたろみな まるもなんいえから 在下面東北小作南手下北 見るなうひるできなか 見はいる我出一上を使えず 所传出去 了的中門大 角でいかいんていたれたと おあ代に、みるかる上 周見付前行教工主意 位之地溶然不櫻於勢利之場保其名節而終其福禄 盛然乾之上九悔於亢泰之上六各於亂盛治備福執 蘇上九以陽剛之德居一卦之外而能安然退處於无 自天祐之吉孰大馬嗟乎八卦乾為尊六十四卦泰為 若大有者六爻亨一吉二七谷三明主在上群賢果集 所以有自天祐之吉无不利之象以此見聖人讀易見 順也志從於五尚賢也天之所助者順人之所助者信 爻解有不分明處則於繁辭傳說破如此類是也〇誠 順而尚賢盖五之交子信也而上能發之無退不居思 一除而上下五防應之上九能下從六五則為履信思

天光战日都是日本一些人 客に気をか上たるしま の万内を科的上五大の古 原学かららておしいか 発光は在九出る面で気 でて今本何しいの中月四年近 京から記れなからえる 於我母的一般好為吃住 だなるながるでれるとい 否以是一种孩方,如为不上 其图10点母之情 巴伯大方 いるる祖名の云を重 至民的事之至,我既后臣 したなかなしたらから びいか大台におのこまで 物以朝貢故為享二中故无谷三不中故戒君子用享 臣二大臣也受大有之任故為載三外臣也奉大有之 售子鳴乎盛矣〇平養項氏平世曰大有之卦六五為 則為桓文小人弗克則為曹馬矣四近臣也以柔自抑 下應之則其字交矣所應者居易无備故必威如乃吉 主初之无交害逸民也上九在上實師也中交三位為 无一敗治之小人无一害治之罪德生斯時雖如初九 不怙大有之龍故為匪其彭五離中虚中字為信而上 之大臣九三之諸侯九四之通臣上九功成身必之者 无交而難進溫袍華於 佩王飲水甘於列門而况九二

以此是全美人在日本人·考 本のは花るとれれ 下京小品四位 不致主天 ひん ぎんかみせるるなべ 明までいれのるましむす 五四日之母三年二十一次五五 東平原 きてなべを変え 新的市外的政治不及 111 11 中上八年之山、唐起与九公知志太子地下中東印尼于上北四馬为女子的神神的市民和四年不敢 111 11 民下 西方七十五道之日五五八方 高 唐七 区西石北群的京 不知此一章是且黑龙哈 那年けられる人のなななる 不后处在沒住云语光王 母を収止なおれるのとと **讌亨君子有終** 益光顯此所謂君子有終也在小人則有欲必兢有德 傳君子志乎議異達理故樂天而不兢内克故退該而 俾有大者不可以盈故是之以謙其有既大不可至於 必伐雖使勉暴於議亦不能安行而固守不能有終也 盈浦必在無損故大有之後受之以無也以為 欲其克自然是也 八本義識者有而不居之義止手內而順乎外聽之意 不於安碩乎謙終身不易自卑而人益草之自晦而德

いれからつき からかせんろはちの名は 不改也 以在这那一秀 寒をなか、文成天子と 元三四比弘光礼孙本 は雪野の金多子食不及事 発す十一後後お子は四天立 サタスランる な 下をすかうるつり十九岁五日 一用多個門所足成主新 天道野盈而益議地道變盈而流議思神害盈而福禄 录曰:語亨天前下齊於議而光明守地道里議而上行亨 議之必亨 難無而能終者之難也非君子豈能有終乎 行可曰此易中最言之卦而天下最難行之事非無之 故能化育萬物其道光明下際謂下交也地之道以其處 早所以其氣上行交於天皆以甲降而亨也〇本義言 傳濟當為際此明謙而能亨之義天之道以其氣下際 也山至高而地至平乃屈而止於其下誠之象也占者 如是則亨通而有終矣有終謂先屈而後伸也心在氏

子完在此公太原上在一 子式中部日後れては了 如本等者是任章帝道惡盈而好謙豫草而光甲而不可喻君子之然也是若无人在古典我 傳以天行而言盈者則虧謙者則益日月陰陽是也以 **議吳謙者人之至德故聖人詳言所以戒盈而勸謙也** 地勢而言盈滿者傾變而及陷果下者流注而益增也 惟無之精辭最盛內三文俱吉外三爻俱利卦解則云 其德愈光其居卑者人亦莫能過此君子所以有終也 而損不足而益者皆是也人情疾惡於盈滿而好與於 思神謂造化之跡盈滿者獨害之無損者福祐之凡過 〇吳氏澄曰六十四卦惟謙之占辭最美夫子象傳亦 〇本義變謂傾壞流謂聚而歸之人能無則其居尊者

のを済みる門氏スな必然 地である大平主天 再生學一家是在此成方至! 明的行う名じを使わる 中に下人見て子中 ずるではおかけれた人 大化子 全なはったる地 多天水光光多花之言 象日地中有山謙君子以裒取多者的益寡者稱物平施 やまれてもらっとそれてかま 伊幸了には一年的代学月 日内タスドライスのなる 以びとて人しではからする すら 大松人多見らました 生子後 思れ及り上へるだ - 周多作者横是 城三春 初兴議議君子用沙大川吉東白議議君子車水面收見 亨且有終他卦之占未有若是其全美不天之所益地 之所派人之所好鬼神之所福悉萃於能識者之身他 本義以早臨高識之象也衰多益寡所以稱物之宜而 卦之替亦未有若是其盛者此議之所以為至德也 平其施損高增平以極於平亦議之意也〇馬氏奇之 子治一世使 識之象也 物平施伸小大長短各得其平非君子謙德也象乃君 日凡大象皆别立一意使人知用易之理親多益寡稱

のはなきて 王はり日日はちてる古古日 出七日花の女田 的子的手用的女用好几

謙而又謙也故曰謙誠能如是者君子也自處至謙泉所 傳初六以柔順處議又居一卦之下為自處平下之至 子之行也以此涉難何往不濟故占者如是則利以涉 共與也雖用涉險難亦无患害况居平易乎何所不言 川也〇用無道以涿川燕退居後而不爭先自然萬無 也教言自牧謂自處也〇本義以柔處下議之至也君

至柔處至下無之無也無之議其過無子日盈患過熱

一失故吉後登舟亦有先登岸之利也〇誠蘇初六以

不患過至柔識也至下養夫識也牧養也謙何俟夫養

日盈日 鋤日不除謙日養日不長此顏子若无若虚之

胡生產日本十十月 月十五丈 松花をあらるりを方 田島田沢三石メの中からす 一時なるとはの外布を経過 初らいま代る了智子道とあ 及了他な用子文切以及与他 ユュスかん おんこまからか ||月易俘養術疑及三卷 |九三勞謙君子有終吉象口勞謙君子萬民服也 家曰鳴讌貞古中心得也非勉為為佐姓子が体が表立いまた 六二鳴議員吉 傅三以陽剛之德而居下體為泉陰所宗發得其位為 本義柔順中正以無有聞正而且吉者也故其占如此 下之上是上為君所任下為泉所從有功勞而持無德 热也 自得也大學之隆者戒其名過而實損故正則古 者也故既能勞識又須君子行之有終則吉夫樂高喜 劉氏牧日以柔居中嘉舉旁達功德雖未若而中心亦

おいわい人からんから 人人ものほしない またいおしまかられある は多なしなう おやれてある外げやいるい サかれ、発しれ、女母中で 男子和母し三川不在ら屋し 不改化学の飲煙でれし三日 たれこしお出手」住在字 上不知りいるあるる 二重九四一安好,在此话看 かた正めるななである! 云元日的男母王是 六四无不利為語 者也此爻之德最盛故其象解特重〇本義卦唯一陽 居下之上剛而得正上下所歸有功勞而能讓尤人所 本義柔而得正上而能下其占无不利矣然居九三之 難故有終而吉占者如是則如其應矣 使知識之善勉而為之若矜負之心不忘則不能常久 上故戒以更當發揮其無以示不敢自安之意也〇葉 而不變乃所謂有終有終則吉也九三以剛居正能終 欲其有終不可得也唯君子安復議順乃其常行故义 勝人之常情平時能法固已鮮矣况有功勞可尊乎雖

おかれたはれるといいはあり やは米福者未出一様いる 侵以ら名 にほしたるい 好道のおればらるれば大 いる 傷 とかられて七利用 た焼豆里水属二なる形 おみらに変を切るのか 记收天人利之下,不由 天 此四日明你可以我在大 かえた 象日无不利為語不進則也 六五不富以其降利用侵伐无不利 引り早に片を一人にた 本義以孫居尊在上而能謙者也故為不富而能以其 勞謙君子之上故當益致其謙如此也 能服人如此利用侵伐不專尚謙以服乎不服者如此 隣之象盖從之者衆矣猶有未服者則利以征之所謂 本義言不為過 良哪曰六四議而无不利矣又曰撝讌何也以其位在 以其隣議之利也用侵伐而亦利議之无不利也舜之 无不利人有是德則如其占也〇愚謂不富以其隣謙

· 一等之人也是一家日利用侵伐征不服也言不服者當有以治之不常事 金田名見かまする小の本型 たらかセカトロナ 可見は日及面不品的侵入者 **おらかかくと他でかれたるり** 母名まり三王隆をある 五一水作之以五位五人 はらひずれまでしたまなけし すれずしいれるので 大用松物を推るまれる 市のからかなられないとの子 此年春日六年六俸五人 不必子を見するらかる 尚杂道也 上六鳴謙利用行師征邑國 恭己而治但在有苗之事似之〇服者固利於服之不 服者亦利於服之所謂无不利也〇坤為地為泉其言 侵伐因坤也傳以五君道當有剛武意此惟五為然若 上处之行師則亦以坤為衆上為果之所與故解 故鳴雖應不承故志未得上六謙功大成小則伐其己 本義讓極有聞眾之所與故可用行師然以其質桑而 无位故可以征己之邑國而已〇首九家云陰陽相應

大小大の四大一のあた! 了不知不懂而否与 凶者無故也 14天年五年之代奉一教日鳴無志未得也視二之中心得者不同可用行師征入了以及 以日本其不多といはまれ 国宝中老少的原记百万中 とかをまるとるなれた 母之路 然為 過回即親五之征不服者不同无位故也然猶不至悔且 斯全人是13面未好的 お云かれれんなかっている 一日はいれいいってもの お子のんからかりけいた るまちいかいちてはいる 人情人的上了唱情与二年七 成形とおうる手は我 女を後ばられる様を大門 者利用行師以征之以其為眾之所與故利於行師用 衆然以柔而无位故但能征邑國而未能大舉如此也 本義陰深无位才力不足故其志未得而至於行師然 志未得伐客伐崇而天下歸馬是願将行也○文王徵 亦適足以治其私色而已〇胡氏炳文曰初曰用涉天 大川伐其國文王是也三分天下有其二以服事段是 柔懿恭謹德者聞西土矣當時邑國有木服如客如崇

七月的初米方立程奏 国ればるの 私大れなるれいさいる 国一户人在征艺国乃台 三五万月外野の侵心也 かかまのご 合供度以到于五便之意 下し己と広島用屋伐上二 世田上がはなるがなるで ナイーライ まり 盖議道之變通也故宜議而不識者為寡不宜議而議 者為多是以六四之為謙是益其家也六五之利用侵 以治己之私而已夫初上皆无位而上之征色國不如 伐上六之利用行師是泉其多也夫是之謂稱物平施 居卦之極故也○葉良那云上三文皆泉多益寡之義 初之涉大川何也初居卦之始有出而用之之時上則 人五居君位其聽也用之可以治人上无位用之惟可 服用之亦可以征不服故初无位其誠也用之可以承 非特可以處常用之亦可以濟變非特可以致萬民之 川吉五日利用侵伐上日利用行師歷言夫謙之功用

はのそれかのおしる 的光度10主答及假好收 季八日城宝 もうけいち 子客で云の門門る大米 代文有法川食、川内11111 X班影从强立历主 (K)的李 主性尤此以及る不為分子 人工中不与山上市的保存性 母母は明る方人と考し 九倍の記を其のなるとなっ 里花王美以在此了新沙 力造保り好る王西大子に うかわるいはんいいれる 大のおいかけるよわるか作り 豫利建侯地以前鎮行师雷以威動 周易傳表情報水手奉 萬邦级大衆非和悦不能使之服從也〇本義豫和樂 也有既大而能讓則有豫樂也豫者安和悅樂之義 師之與泉心和悅則順從而有功故悅樣之道利於建 傳有大而能識必豫故受之以豫承二卦之義而為次 也人心和樂以應其上也九四一陽上下應之其志得 傳建侯樹屛所以共安天下諸侯和順則萬民悅服兵 行又以坤遇震為順以動故其卦為豫而其占利以立 侯行師也又上動而下順諸侯從王師衆順令之象君

顺以改立接沿方 相臣子からいばかろうし るをあせんにしなかれるか かな中国かりてあってかな 生しれ五到政治 出しい大名 一方女子を古田京不守不下 天後でなからは秋かそれ子 用此本語光彩图画的見其里 住来る股川初の門これに変え 可の一份ないをりなおなる 机城中天备古窟, 於一般 释一版《三水》點上此 到以此小孩上住之 長い別方名に大小路 ~するが 家日豫剛應九四而志行順以動豫 家傳主九四以德言 為强接而係且不勝其豫而自鳴皆倚賴其勢位而然也 爻解則九四以勢位言六三上視四以為豫初六應四以 義以卦體計德釋卦名義 **爻無此義而傳始發之** 為動而順理順理而動又為動而泉順所以豫也〇本 行動而上下順從其忘得行也順以動豫震動而坤順 傳到應謂四為群除所應剛得很應也志行謂陽志上 爻所言逸豫也傳曰重門擊析取諸豫此備豫也在卦 君用師也〇僚打三義大象與九四所言和豫也除五

思わればれれか中人出状を はてなかるみき そ大のめ也 て如びしみを山なる乙以初之 正奏のけまろのみたもあい 你、そかできるかだけいてもかる 花の村では、白云波をかっ 在近代社会で 《富文段的多物表》家日雷出地香染先王以作樂崇德股為之上帝以配祖 七京的内部一以作工利作之 はからものれてするりほとも やまれれ上十十八堂三十一月の夕天衛屋へ上を 七上十十里上の記古四日子 |豫順以動故天地如之而况建侯行師手 考 罰清而民服豫之時義循言道理大矣哉 天地以順動故日月不過而四時不忒聖人以順動則刑 本義極言之而發其大也 本我以卦徳釋卦辭 本義雷出地奮和之至也先王作樂既象其聲又取其 有所主惟郊祀上帝則大合古今衆樂而奏之大司樂 義殷盛也 〇潘氏夢旂曰樂之為用朝覲聘享祭祀各

成れてや場方ではいれたの 此少書の京在の名れなよ 方作れていかいのが た方を、そいれいけれん 初六明豫山小人士息苦地女王的品的表示在在各种不明的火车 本義除孫小人上有强援得時主事故不勝其豫而以 之上帝以配祖考郊祀后稷以配天配以祖也宗祀文 有吉山之異〇胡氏炳文曰爻辭與卦解不同者三卦 之,禮豫為易中之樂 解取同樂之意及解除九四外皆為獨樂卦解只一豫 醉為泉樂之義爻辭除九四與卦同外皆為自樂所以 自鳴凶之道也故其占如此卦之得名本為和樂然卦 園丘之奏樂極九變是也故曰先王以作樂崇德般馬 王於明堂以配上帝配以考也〇呂伯恭曰復為易中

中はそれなかたる人 以かしなの神や 五代を私 刀山平之京社 日王安女白一花兴出不多 第四日人的· 六二介于石不終日貞吉象曰不終日貞吉以中正也 即已官聽送形徹住於實 日かそうれるいかんうらんな 外だなでるうだやかが 二十十七十七四五四日本七 かもなるいっていにんだりま 象目初六鳴豫志窮凶也是不多其事之志,因告于女心故此已 本義豫雖主樂然易以弱人弱則反而憂矣計獨此爻 本義窮謂滿極 中而得正是上下皆弱於豫而獨能以中正自守其介 字而文之言豫者不同初六上六逸豫也六二幾先之 正如此占者如是則正而吉矣〇胡氏炳文曰諸交皆 如石也其德安静而堅確故其思慮明審不俟終日而 豫也六三之遲循豫也六四和豫也六五弗豫也 見凡事之我微也大學日安而后能處處而後能得意

11年有格教典文学的1 展说阿古三四的挑好一张 三女月人 火州的為為為不多一六三肝豫悔遲有悔象曰肝豫有悔也不當也至不下的一日人 所松夫記でらば天然五 古曲だるいばあるるで答う 生存人が見る人なで一叶 ある白田葵 あ全人立て村 上視於四而下湖於豫宜有梅者也故其象如此而其 本義肝上視也陰不中正而近於四四為卦主故六三 不係於四介乎初與三之間獨以中正自守其介如石 古不為豫也初應四三五比四故為凶為梅為疾六二 占為事當連悔若悔之運則必有悔也〇胡氏炳文曰 逸禄之禄而知有先事之禄者也 為於豫者惟二五不言豫六五貞疾不得豫也六二貞 故豫最易以将人而六二則不俟終日而去之盖不為 **肝豫與介石相及選與不終日相及中正與不中正故**

后是但事有美一三老

りつの夢にを打る 九四由豫大有得勿疑朋盍籍發者聚也取聚發之義也 下无同德之助所以疑也唯當盡其至誠勿有疑慮則朋 任上之事豫之所由也故云由豫大有得言得大行其 傳豫之所以為豫者由九四也為動之主動而衆除悅 類自當盡聚夫欲上下之信唯至誠而已茍盡其至誠 弱之君而當天下之任危疑之地也獨當上之倚任而 順為豫之義四大臣之位六五之岩順從之以陽到而 則何患乎其无助也簪聚也〇本義九四卦之所由以 志以致天下之豫也勿疑朋盍簪四居大臣之位承柔

杨祥气的印出居从水大和 一年的事有者 不多考 世之君是也是疾女大杨已移侵不死女名多点是是已分晚也不可不 傳以居得君位為貞恐未然其言常疾而不死如漢題末 也 不死之象即象而觀占在其中矣〇當豫之時而不為 本義當豫之時以柔居尊沉溺於豫又乗九四之剛泉 不附而處勢危故為貞疾之象然以其得中故又為怛 不疑則朋類合而從之矣故又因而戒之籍聚也又速 為豫者也故其象如此而其占為大有得然又當至誠 こるたれ大きるけれするからから

白者や一大子堂を上二三震下 笑的笑色四色差上六直豫其事雖成而能有渝无谷 世民作为在治艺、此图 不白出し八かて八人なる 人是心的佛子英文二 そんこうは 高傷空るが 在上大字为鱼礼群九八的 唇已人以被思之的前的 周易傳義補疑人之卷 象曰六五貞疾乗剛也恒不死中未亡也 本義以陰柔居豫極為唇真於豫之象以其動體故又 為其事雖成而能有渝之象戒占者如是則能補過而 恕於終者所以開其善也 无谷所以廣遷善之門也〇胡氏炳文曰初鳴豫即断 豫者六二是也當豫之時而不得豫者六五是也 以凶甚於初者所以遏其惡也上宜豫則開之以无谷 -----

出党上以去人位五日 中華人一里也是不好的 世語品を強大する民間 天子打具不以外在恐城的 は松子はみた産をでし 妻 光川におかな此 以九母 化丁基 我这人我也人 不幸了此品不公平少小 人分及了大火中南田丁 おおみせいき きまだった 子からずらかずなスタカル アといれなるな大さ あるなやれる白代わり |随元亨利貞无谷 亨利真四德也春秋傳移美口有是四德随而无谷我 義以二體言之為此動而彼說亦随之義故為随〇元 **嗑九來居五而自未濟来者無此二變皆剛來随桑之** 傳豫必有随故受之以随夫悅豫之道物所随也随所 本義隨從也以卦變言之本自困卦九來居初又自噬 皆无之豈随也哉孔額達云以尚相從涉於朋黨故必 以德外悅之以言則天下之人成慕其行而随從之旣 以次豫也 須四德乃无谷也〇鄭康成日震動也名說也內動之

中心 かかだっぷんな 他的元言 記の字 品歌 同島学院南走 得占法之意美當從何疑〇李氏舜臣曰随長男少女 陽壮於陰可以相制而陰自随之故謂之随君子體情 他乃可自左氏及孔鄭諸家皆以為然而文公亦云深 剛之德沙立於世要高使我能轉物而物自随我不 亦當審其所随之人有此四德然後随之則安而无咎 〇按我随物物随我易失於說隨必備元亨利良之四 天下之随也必當修天地生成之四德人将随於人者 見随從能長之以善通其嘉禮和之以義幹之以正則 功成而有福无此四者有凶谷馬〇胡氏且云聖人飲 以轉我而我反随物此所以出而應世雖无心 = 1

英好はよしたら辞るの例 かんしょうかずするを代 都下のか万元紀子が国人 のびずているのるるるほ子 至日的不是接个了多。大车车至真无谷而天下随时中世上的五七日日的中西 でものでに接入するる 和司帝等不不行了的 他位也不 ある上代·ある 出于名か之本時之心から 方人をおきるなしかいけんれ 支段中省川田東下京八七 可饱之路以此也 **家曰随剛来初九九五而下桑動而說随** 本義以主後計德釋其名義及即在日前方以下的中以 特也愚以為在他主當兼時與義兩重而随則當重時 所謂係人夫乎于嘉是也李氏之說似不可記 於致人而自得一世之說随也都竟不住也物之时如 字盖隨之所施惟在於時時異而不隨則為否古註疏 時義以時與義為兩事而傳則主隨時謂天下所隨者 下之所從也〇本義從王肅本時作之後云當作随之 本義王肅本時作之今當從之釋卦幹言能如是則天

中でるではあして存とれ、用りに表前に、三を 我多多不多多人家日泽中有雷随君子以獨晦日将夕入宴息 ていってはるかのちなけれ 此的好少时中的最近天花生 光が光光のませ 农大河 传写字形天文 やなみるとうからなんで 女せて下人口が、心セスさせ いおおれるで夜を歌安 かびはしててないまるよ こんとあいるかいかを外 第一大日本日治明日三 会びばこせきき だえな **生養茶香町季** 大化色工的 ではラ州さいるかある人 随時之義大美哉母是是这個的子物以下自文為西央西北连三 樂法度始於書卦垂衣裳而大備於成周当聖人智慮 秋冬之時乎君子體天行事故動與雷俱出静與雷俱 本義王肅本将字在之字下今當從之〇蔡氏淵曰天 本義雷蔵澤中随時休息〇丘氏行可日澤中有雷其 有所不及哉此随時之義所以大也 下所随者聖人之時而聖人制作又當随天下之時禮 之時是也 明言之矣王介甫亦云在泰則随泰之時在否則随否 位知此好女生不能与五将也 二七五

なはこぶなかてやおかろ 巴布主的有主人在北京上 えるしる名が原的 1.何之家农的的之文 初れるでしるからはれ はセナガはヤーテのはめた のなぎらいかっている。 息とうないといるかとしたな 要の聖人がけかさんや 如义工图首都五大寒 雪 有功 初九官有渝心有所主随時而動有所變易不能保其无 偏故必變而負則吉出門而交得随之正而不牵於私則 袋其常矣惟得其正則吉又當出門以交不私其随則 震之主卦之所以為随者也既有所随則有所偏主而 時而見好之面如好也之一我山新以花物与的伏于都之 本義卦以物随為義文以随物為義初九以陽居下為 雷之静也〇黃氏宗合曰卦爻取随時而動大象取随 有功也故其象占如此亦因以戒之 入如豫如大壮如无妄皆法雷之動也如復如随皆法

我你是多多的一六三條丈夫失小子随有求得三之於四不可以有求必 意の支着といいるころ 李京西京都成都到六二条小子初失丈夫五 神がからないなかとう に伯記の見て二十日主 四次が、行うれた意気が大大は北大は北大大なな大大大大なななると はいる知気はませの 天き常れからから一月男将長街近下三本 のにきてれたやとる。得之故而妄有不正之花故利居息 象曰係小子弗無與也係此則必失彼 象曰官有渝從正吉也出門交有功不失也 本義初陽在下而近五陽正應而遠二陰柔不能自守 桑不足以自立故初九九四九五不言係而六二六三 上六皆言係也 以須正應故其象如此山各可知不假言矣〇楊中立 日以副随人謂之随以柔随人謂之係到有以自立而 17.7

はのれるないである。 不得和父子的都不在父 惟七九月十七分日五 改治の中本部の在党し 全でとまる)不ある キーにはたるるのと一所高得はなったるりしち伊尹用がれいずでを必めるしまかるなし 是四个方面上路道以明於處之何各六三以随人而有得九四以得人之 お草はそ からる面とき はきていれかはひるたら モラシャネカンスポカシ 九四随有獲貞凶有字在道以明字就積於中動為合於 葵田係丈夫志合下初也我也也是我一名本常里中七四五 非正應故有不正而為非媚之嫌故其占如此而又成 其聚與六二正相反四陽當任而已随之有求必得然 本義丈夫謂九四小子亦謂初也三近係四而失於初 其所當失失即是得也瘡以潰為得病以去為得六三 之失乃所以為得也 以居貞也〇胡氏炳文曰六三夫小子而言有求得失 知めるし 代光功名~臣多不完好只生一日字

当人第了意己の一象日随有後其義凶也有乎在道明哲之功也多ないである 臣不许多将表出 高武以城 歩人出名於~や上路不一 ねべおうるひまられませ 胸中大川川達者大作人で 好用免役差人一切不用的用! 方は後枝左右或下白心にい 矢をのかる 田をとめれりなるのと 这种国一出社 内を子なからころりは 天色五九春 哲一代也之大 周ラクなりに有 走した 上六狗持原係之乃又從而往繁之王用亨干西山 本義陽剛中正下應中正是信于善也占者如是其吉 本義九四以剛居上之下與五同德故其占随而有後 也五之子許之之辭也喜其子於二也 之任宜審此戒るはむがはいころもるくるやれといかされおうれ 然勢陵於五副君居上非四所可犯故雖正而凶惟有 宜矣〇胡氏炳文曰四之字戒之之辭也欲其子乎五 孚在道而明則上安而下役之可以无咎也占者當時

孙内立代灵王 再女子 本ゆしかかれて空の百 第四所治らなると活力 作-乃以作了沙山形文子 記事以上の打長のい ~を全なるとはこれられ 三年国した人ちちて地方 上至引在人区的第二页 失王女师对一分的个 此既被你便上不好的死 雷乾件中州少公西北 子者 说回面山云野的 当人在王王者當り好种 如星過十五十十七十十 傳上六以采順而居随之極極乎随者也拘繁之謂随 伙雞去船来收鑑人老稚扶携以随之如歸市盖其人 之極如拘持縻緊之乃從維之又從而維緊之也謂随 之固結如此王用亨于西山随之極如是昔者太王避 随之極随之固結而不可解者也〇丘氏行可曰六爻 岐山也周王之業盖與於此上居随極而能得民之随 心之随固結如此用此故能亨威其王紫於西山西山 與随善之固如此乃為善也施於他則過矣〇本義居 随四所以有得上随五所以用亨而二随初所以有係 以陰随陽者言則上之陽可随而下之陽不可随此三

八百八十五十五 三老

猫毛 本のなるとスカラなとと 見て不久切死の事件公

The state of the s

盤所以次随也益事也益非訓事盡乃有事也在文為

次也夫喜悅以隨於人者必有事也无事則何喜何随

象日拘係之上窮也上處随之極處甚其人心固結而不 可解 傳以喜随人者必有事故受之以盡承二卦之義以為 本義窮極也 **陰之随所以貞吉随之不可茍也如此**. 四百位不當為人所随此四得陰之随所以貞凶五得 小子之失以陽得陰之随者言則五君位當為人所随

外至成分在大家安庭五年利沙大川先甲三日為辛平有新意後甲三日為中華水石度本家安庭 以卦之才言之所以治盛也 的中西元灰粉化在文 本外は在数表のめ合せ 美好小中多三四万多好!你 のれたがなてだおがなる 防川とは単字一以供名 大きるてではや 常見四しませんかん 七分一方尺五人 上はないのまかしける! かがあると報母重の名 かであれのはちスナルシ 清月 有人 張四盖 之有蟲蠱壞之義以卦之象言之所以成盘也 然也如卦之才以治益則能致元亨也盡之大者濟時 傳既監則有復治之理自古治必因亂亂則開治理自 後於此處其将然也一日二日至於三日言處之深推 之端也治盛之道當思慮其先後三日盖推原先發為 枚與可久之道先甲謂先於此究其所以然也後甲謂 之艱難險阻也故曰利涉大川甲數之首事之始也事

の父がて、死亡了る後へ こがれれるか石しなや学 る時々いるの本の女に共立 するなるなみないグようさ 二次分四十七五二十七日五五 ごよりえるろのなるえる 明洛用件形容易了不容形 がはるれれるとからるると やけてて あえようた チェ りなか 以北京は一口人 なはれるのまですせまやめる するのないの方大下裏のう 中山中こその川すいは 使至於大壞後事方始而尚新然更當致其丁寧之意 涉大川甲日之始事之端也先甲三日辛也後甲三日 其卦艮剛居上巽桑居下上下不交下甲巽而上首止 上下不交謂上高亢而不下交下甲異而不能故 以監其前事之失而不使至於速壞聖人之深成也〇 故其卦為盤盤壞之極亂當復治故其占為元亨而刺 王所以新天下而垂後世也〇本義盛東極而有事也 之之方善放則前與可革善備則後利可久此古之聖 丁也前事過中而将壞則可自新以為後事之端而不 之速也完其所以然則知敢之之道處其将然則知懂

同る母人相大 道也 录白盘剛上而來下其而止盘此是效益之由非治量之 也〇本義以卦體卦變卦他釋卦名義盖如此則積勢 者也今往居於上陰孫甲而在下者也今来居於下男 雖少而居上女雖長而在下尊早得正上下順理治益 傳以卦變及二體之義而言剛上而恭下謂乾之初九 之道也由剛之上茶之下變而為艮與艮止也異順也 上而為上九坤之上六下而為初六也陽剛尊而在上 而至於蟲美〇重溪王氏景孟曰蟲非事也以天下為 下巽而上止也於巽順也以巽順之道治盡是以元亨

東京不見松下医流言於法女 際的打完体人会係必在 場はてしたすいけしり水 母報首 天 美高州东文 か山丁生を完きる 老放兵先石一名五形 名 万,在水平中自己引引了 作用出公不及如中松的 ないなけらかない山大人 先甲三日後甲三日終則有始天行也治益都當終前事年利沙大川往有事也在之地沒事其的各者其為此两種為 始後朝如天之行言人者以面下走不可的名字如公中 盘儿 異順而无違忤則禍亂之萌乃在於已安已治之中逐 至於敗壞而不可勝矣此剛上而柔下異而止所以成 上艮也柔下巽也在上者有止息而无動作在下者有 无事而不事事則後有不勝事矣此盡之所以為事剛 本義釋卦辟治益至於元亨則亂而復治之象也亂之

指在在中世界也是 我口山下有風木則推落 盘君子以根民有他治人借其 为人了也陪任奉王臣圣里之故病號令治巴循艮山之養成材木此言度的一论 大松七色 老田文風花之及 B 居口是从了新处 となるとは後でなねなるだめ、文 あいてつや するなかなる一大の一年 ましていやねもろいとれ 考しいい大次子なせりくる 大樓一年二考的人先在他各 近てみのなるものそえばあ 子のなると本ので のなかれた大きないった おるわれるからである 一初六幹父之盛有子考无谷属終吉 本義幹如木之幹枝葉之所附而五者也盡者前人已 本義山-有風物壞而有事矣而事莫大於二者乃治 終治之始天運然也 壊之緒故諸爻皆有父母之象子能幹之則**的治而**據 巴治人之道也 起矣初六蟲未深而事易濟故其占為有子則能治益 而考得无咎然亦危矣戒占者宜如是又知危而能我

留下中心中之子的形在了了九二幹母之盡不可自固盡其到直之前為自遇至三四年的不及要之程 世切者、ころ人科美物他 をする神様と記録がつりりりまして月を 以傷不为四百七七四次 張町名を行由者致は王 一方寸位人がおりはる四年 やいなる女女の女人れる 象日幹父之盡意承考也不不與事而於其意此都繼以 お者也 本義九二剛中上應六五子幹母藍而得中之象以剛 シ事 貞三則小有悔然卒任其事為功故初終吉三无咎五 則終吉也〇召氏大防回父母之蠱人子所難治幹者 上異順於下猶子道之服勞而順於下故益多言幹父 用譽也〇張南軒曰艮止於上猶父道之无為而草於 身任其事而不敢避也以子之難故初則属二則不可

不知日前精神地以已必要 其实补充方案大段智欲 光彩节~比形月东人五 本中するとさせた大村村 すとい四村 日下れれれ<u>村</u> 不用九三名 你可見母由以 其品 當人不可能也九三幹父之監小有悔過剛无大於極順 するにかれ 果るしとるの 机等实出回调停多五 佐盖路人很好多处文社 年出更多的西子院は出 兄子の方を我以上者也 王和九四只在是部分多二 象日幹母之盤得中道也 万多件著科科の三老 本義過剛不中故小有悔異體得正故无大谷〇毛氏 其蟲與幹父蟲不同若專尚剛直盡行授亂反正之事 於中道未為得也 〇中溪張氏清子曰子幹母盡但當柔行異人以飭治 各必不得已馬寧為三之悔不可為四之各此治亂思 上之後我也许好更为在當处的任子不要好之克豹工了你玩了你男子知道 伯玉曰九三之鋭失之過故悔六四之緩失之不及故 承柔而治其壞故又戒以不可堅貞言當其以入之也

多印の人子母き行放九 る行出になる大型人名と 王はかめ安守しからてきて 19年人民任言子不要引動、子 一日したららるがれるるかか 横至以此三段而正百份 「是當的在日本五日六四裕父之益往見春象日裕父之盡往未得也 かをくこてみくまねや 目がけれるたなの西おして 俊不在子乃後因此方成五 七年幸福の人主)か不満の 川谷三古公人 「成本却多る又母人には我」 一周易傳養補路 水丰東 本義以陰居除不能有為寬裕以治盡之象也如是則 盘将,日深故往則見各戒占者不可如是也〇梅嚴衣 **松不義則終无大谷也** 氏樞曰諸文之幹盤者或體剛或乗刚或應剛獨四以 强以立事為幹息而委事為裕事弊而裕之弊益甚矣 柔而止所以致盡非所以幹盡也心習靜劉氏彌邵曰 詩則有不順之名故始雖不免於小有悔然不陷君父 王相卿曰以九居三剛之至也以此為子是諍父之十 = ; -----

そうでうかいれいじせす 五人工 和ないるる神典のされてれ 全农了每任刑兵的西以上一年的美国人之后一位的一年的大学一年不知经生了只被击死一年的一年的一年的两年别的一年的人工工工作的的对外的一个一个一年的一年的一年的一年的一年的一年的一年的一年的一年的一年的一年 おくしせれる 美彩老三犯不失不全名於 火をない正角本を 日本教を日中はくみかれてる。 佐文教芸をはるの即一六五幹父之盡用磨五能任九二以治益二之器即五之 る用会心幹込みました のおはるはべきや太中 上九不事王侯高尚其事不る的妻子也多矣以好者是不是为上边好了家供 象日幹父用悉承以他也在印刷中心位 之名者也 故其象占如此〇胡氏炳文曰諸家以為用九二今是 之臣近於以名用人不若謂任九二之德自可成六五 本義柔中居尊而九二承之以德以此幹盡可致問卷 益其盡者爾持是以往各道也安能治監耶 六四體民之止而文位俱柔則是止者念柔者儒皆增

如为人多为自己教堂。教目不事王侯進退以道用合随時其志可法則也等别言一次是是我人教子,外也的五千年的让上个人很为你们的告诉考的者的名名名名 いかのか、七子を七名等」 引の身後有を、これ 物以めの成为己の張るを マスペンくいるるアナ をすれるるないおるの お上れせいあるママセ 山田大力を表になるとる以 おとえたしるあるちか かるできることでなるか 男はなるいとかにしる人 柳带都得以唐凡多布 花は春の完善しかる之 - おとり立てるとまるいとな 身以退體民之義而止其所當止故也〇他久在事之一大都是 盡力以幹馬操異之權而行其所當行及事之休也潔好為其 丘氏行可曰上五二爻以家事言則上為父五為母衆 義念故可委於事之外而于於父母則不可委於事之 中美〇隆山李氏舜臣日君子當鹽之世方事之與也不是 本義剛陽居上在事之外故為此象而占與戒皆在其事發 退而不為僻他交言父子。而上交獨言君臣盖君臣以 中故盡力以幹而不為污惟上文在事之外故深身以言為 1 1 白思好的 一口尼供去再

お取二田並色者の多数 見りからわかな 一門之 以及分於江西臨元可利息至于八月有山臨有相臨通臨二義無說為 万女とる人やし 打在四方各卷代与子童 月以本でいる本以以を記 の直然をはしたせん のあいとの治不一大夫 品料的付第一分三米也 不治かの多さは時に人 人人や国でをやる在二 是在計取自上臨下臨民之義 存失此易道所以優遷而不可為典要也 爻為不事之臣故曰不事王侯高尚其事觀下五爻以 事則可大兵故受之以臨也臨者臨民臨事凡所臨皆 傳有事而後可大故受之以臨臨者大也盡者事也有 幹父言則父之位存矣觀上一爻以王侯言則君之位 文為子以國事言則五為君下四爻為用事之臣上一 11 1 1 1 1 1 1 1

母全型父子 特が出めると、月本必なでる 区情報と記りるわか我の 東二成 方七川孔与おえ 又此以此下老三人又上来 幸しやあかるやあみはお 有偿遇之去天方以好之 紀五人小人乡投店不住川子 一日日から思めるとして 更生的方法属西十人也完不 战戒二年五关 は立る因を永久に入れを記 るるとうとなめあれたる 臨二陽至觀危矣故曰至於八月有山所謂至於八月 陽勢方威至於八月建酉計為觀四陰浸長逼二陽則 有凶者於臨則當自臨數而不當自復數以觀次臨則 除生一陰姤五月二陰逃六月三陰否七月四陰觀八 凶也或曰八月謂夏正八月於卦為觀亦臨之反對也 中上應六五故占者大亨而利於正然至於八月當有 本義臨進而凌逼於物也二陽浸長以逼於陰故為臨 月方建丑十二月卦為臨二陽浸長逼四除當此之時 又因占而戒之〇按一防復十一月至己為乾則陽極 十二月之卦也又其為卦下名說上坤順九二以剛居

传五大南圣人为我况子方生

第章が中子は送上的而順刷中而應以上三句解臨于 みの女は人きるまれたから 柳於明長にある又看如此は 急縣去又不方思亦艾夫 慢長内有二六有衛の長不 我曰臨剛 陽浸而長浸有漸意氣不順進形不順断也 周易傳義補起、三卷 本義以計體釋卦名 為坤故曰消不义也胡氏炳文亦以為然則觀為八月 當數至觀而不當數至避臨觀乃陰陽反對消長之常 卦八月卦非指逐明矣 陵龍氏仁夫又云臨反對為觀乃八月卦一轉則為刑 本義又以卦德卦體言卦之善〇中溪張氏清子曰說 避卦為尚八月哉此李氏舜臣之說似於柔義為當廬 理文王於臨而以八月有凶為戒其義甚者豈可外引

おいても大大な大きられ 四方とてきるできる元至于八月有凶陽消不义也去のあると解表工なるるでればまして 西学人并不是一大亨以正天之道也与了中的人中的下部的人人 おけからをするいのはくる 怪りだ る又不正子九万里山 外班女子 私全理 图中专工 心气怕 内议老最好手 大日生好 好不上直找大多 州西至任之前の元公元時間即即東南北一大日本 おれるのは日本日本之深地容澤容保民无疆其度量如坤土之大 信を見堪也見る事しいは大 引作 · 当時 京時 泉日澤上有地臨君子澤潤地以教思无窮其意思如免 **ダズルりょうせえズネ** 初年一上首他出版如此体 本義言雖天運之當然然君子宜知所戒 本義當剛長之時又有此善故其占如此也 本義地臨於澤上臨下也二者皆臨下之事教之无窮者 故能大亨而得正 坤為順順則四陰之從也為不逆二以剛中而應乎五 而順以二德言內名為說說則二陽之進也為不過外

外传白成子の武は大切しぬ 之 否其子最点的新初二 好力色度大公學与五子表 假也又常心二大而色 ながそら上位かいの好之る 色の話かいかえるし食大 **手たのならる成まない成え** おかせしとはいて 三大路 指不幸 到沿路 扶牛的不妄似獨与場出人 じしたはでシレチスログニ 方一で方もうると成の五二円 日王按心州成及風片僧田子は おなるる川次の成られの石田 ż 初九成臨貞吉象日成臨貞吉志行正也等於是社學 九一成節古无不利明的中心意思城和与不像于是做事及その大大 二之辭也 是以吉而无不利也自言者戒初之解吉无不利者勉 未當臨陰之任惟當固守其正以從二二得中勢上進 本義剛得中而勢上進故其占吉而无不利也 本義計准二陽偏臨四陰故二爻皆有成臨之象初九 巴當臨陰之任矣在二率初之陽以同往則柔不能拒 剛而得正故其占為貞吉〇進薪徐氏終日初未得中 **名也容之无疆者坤也** 去9日日对山州史花次年界

P·私少党和全皇最 象日成臨古无不利未順命也等的世界前該成 てかない立ちひ ことは勢かれるいれる おおさらず不られ近ろ時 周易傳義補疑不主卷 六三甘臨无攸利既憂之无咎象曰甘臨位不當也既憂 之咎不長也 深矣〇項氏安世口六三以甘媚臨而无攸利見君子 本義陰奈不中正而居下之上為以井說臨人之象其 苟從而卒亦未始不從傳謂未者非處之幹是也 占固无所利然能憂而改之則无咎也勉人遷善為数 六五除來之主二以剛中應之事之以正未肯容悅以 之難說也既憂之无咎又見君子之易事也盖君子之 順上命然剛中與桑中相應亦豈終不順哉始雖不肯

大臣で左別やしまる至王 本·路像为6~8及至日一六四至臨无谷典初相臨最為切至 至中元年形在一切對冬時 思随かしますが二十二元 外からの谷 个本的8月日年春一家日至臨无谷位當也 するうか取のゆうるよう 中有连一段,在为译写的大 六五知臨大君之宜吉 之人爻詞雖為六三言然亦可見二陽之用心矣 處已也嚴故不受不正之媚其與人也寬故不治既憂 本義處得其位下應初九相臨之至宜无咎者也 倚任於二不勞而治以知臨下者也夫以一人之身臨 傳五以柔中順體居尊位而下應於二剛中之臣是能 丘氏行可曰三四皆陰柔三乗陽而四應陽三位不當 而四位當也故三无攸利而四无咎

應九二不自用而任人乃知之事而大君之宜吉之道 所不周是不自任其知則其知大矣五順應於九二剛 者通足為不知唯能取天下之善任天下之聰明則无 也〇六五與九二為正應不尽其進而以柔道接之二 之賢得大君之宜成知臨之功盖由行其中德也人君 中之賢任之以臨下乃已以明知臨天下大君之所宜 乎天下之廣若區區自任豈能問於萬事故自任其知 剛中而應反為吾用是兼衆智以臨天下大君之宜以 之於賢才非道同德合豈能用耶〇本義以來居中下 也其吉可知象云行中者言五有中德故能倚任剛中

東京発展之子至上六敦臨古无谷 发色不实说的表 最外一之 "大主王正花已代相 治学后 化石灰地名向 沿衣 第1九天艺大下、天和 間色化成了 方可知此める 象四大君之宜行中之謂也非校暴以為剛在察以為明孫閣之主而得以智稱者此也 者即舜之用其中於民也 本義居卦之上處臨之終敦厚於臨吉而无咎之道也 坤厚之德臨之以俟二陽之進而非敢以柔臨剛也在 故其象占如此〇吳氏澄曰上六陰柔居高臨下然以 上而不以高自居厚之至也此爻取義乃臨卦之正意 民敦臨皆吉 〇李氏舜臣曰以厚接物未有不安者故敦復无悔敦

聖不是後の日中の計二相推 文やはないはいなべ をはしばら、年七分七日 限如る見を強し体立ると 本子中心、針在的行为 さるらりやうななはし 七阳代 南西第九一体 文成 子老れるるは正正した 象曰敦臨之吉志在内也内部初與二二陽 之二陽而凌手上之四陰然二當任而初不當任故 古无不利而初但曰貞古而已其上四陰則皆受陽之 臨者而遠者吉近者凶三其最近者也故无攸利而四 不利近故耶 无咎五吉上以獨遠故吉无咎馬豈非臨之道利遠而 與為臨也初與二下臨上剛臨柔也三四五上上臨 徐氏終日雜卦云臨觀之義或與或求與者言上下相 柔臨剛也上下相臨所謂與也○丘氏行可曰卦以下 The Work

果を向けからあるなな 冬至四常近七百十九 中とて水、江南谷原主 西班生七年六五百百五 受世代善之私上人名哈格 在使为林公百五一座东 ·西京若这四年的十二十 **本在政法国法古科岛** TELX在不及XX了大学人 人は水しなや ましるかべ 觀盤而不薦有字顯者 リーイーオオナシーブ 德行政為民 瞻仰則為觀 傳臨者大也物大然後可觀故受之以觀觀所以次臨 幽將祭而潔手也為奉酒食以祭也顯然真敢之犯此 除仰之又内順外異而九五以中正示天下所以為親 卦四除長而二陽消正為八月之卦而名卦繁解更取 本義觀者有以中正示人而為人所仰也九五居上四 觀者為觀於下也人君上觀天道下觀民俗則為觀修 也凡觀視於物則為觀為觀於下則為觀如棲觀謂之 他義亦扶陽抑陰之意〇傳以為旣薦之後人心散而

皇太阳无数之存立是北大 体之化以考不不在於思己元 班手奉の当七本七方易方指 生不似風るまるしいかるまつ 竟全英恨言名之<u>家</u>事可大觀在上順而異德中正以觀天下 光子を 七八九天子があけ かけしるまではさいえるか 京は建し子に凡がるるるで 付生りがおの仰美なるん ローはははみのだられるのる 不我在三年七世後以太以子里 あ 再記る 立る性変化人 以不人于 · 其之表美 幼その大で吸いた伝信山野な 一声で落れなれてお金田 日刊日日本日本の日本 本義以非體卦德釋卦名義以徐氏祭曰大觀在上以 自下親上曰觀故卦名之觀去聲而六爻之觀皆平聲 恐亦未然盖所謂觀者方盤而未為之時已有乎信在 不若始监之時固非本義以為致其潔清而不輕自用 初未當致物也威儀度數亦皆未是而已有字期若其 位言順異中正以德言有其位无其德不足以觀天下 以其外貌而已也如此說方是〇楊中立日盤而不應 所以交神明者盖已有在矣〇朱子云自上示下曰觀 中而騙然可仰必如此然後可以觀示天下非徒觀示

を全然を対金ねをゆる二

·一·《子学自是是一段教聖人之所以為觀也 在路外不正常的是不知道, 觀出而不為有手期若下觀而化也 不易是言言言之一有土此有民省方觀民乃坤之象異以申命設教乃異 松至四元 うなしかみ把の情を取 好るできまな 英あ名られて人 神古時がかな生まれる我以 北上国門と山かし 克石方:在任:有司经及易 Man # 20 1 美日風行地上觀先王以省方觀民設教 要使用了最受了·本義極言觀之道也四時不成天之所以為觀也神道 生不大智色言語中作品 本義釋計解 一口に大てたらのハグ 大性的第二天情不知是有 有其德无其位亦不足以觀天下 觀天之神道 莫知其然而四時不成四時代謝終古如一 二是 清华事者美一 三号 聖人以神道設教非有每有迹而天下服矣 本義省方以觀民設教以為觀〇丘氏行可曰坤為土

将せるし **子太火星治心不及于れけぶ** りがはき大めえばきいる一初六童親小人道也置人がではあるという考とらいて又中不多からえ 以为是产品下好之三之一初六童觀小人下民也在下民則无咎在君子則本象曰 スカナヤロシこれらよ大から たる場れる不能文明垂化 は招き込みれてのならる 我你不然 文朝だ子将 市内はそう人とおのなんだっ 天在中かられるうさこ 一周多傳教所經不三卷 …… 六二開觀利女真問門中視也 本義卦以觀示為義據九五為主也交以觀略為義皆 示之以禮之類 之道君子之羞也故其占在小人則无咎君子得之則 桑衛之淫風殺以禮別奢如曹則示之以儉儉如魏則 觀乎九五也初六陰恭在下不能遠見章觀之象小人 之象〇三山吳氏綺日觀民設教如解之末紫教以是 可差尖 罕

老意公司不好百年五一六三觀我生進退觀自己所行之當否以為進退盖六三 中第三次後衛五福一去九五速又不為觀於人止是自觀其所行當進與不當 是世女文文文的世長 家日問觀女真亦可聽也 世本 せえなれれる内状でな 才信のゆすが、方工が上土を一 此及の二种は五西海方の面 本義陰疾居內而觀乎外關觀之象女子之正也故其 在女德為不失男子而寡見迪聞則可觀矣 本義在丈夫則為觀也〇項氏安世日婦人之目所窺 陰故皆有切稱象初位陽故為童二位陰故為女童觀 占如此丈夫得之則非所利夫〇胡氏炳文曰初二皆 者被婦无公事所知者點織女无足非所議者酒食此 是芒然无所見者女觀是所見者小而不見全體者也

安放人成立治事中觀我生進退未失道也四得觀之道初二失觀之道 おかやた三田立西へか宜 年を後の我は長夜のし私作 め区为西太西春社し代美 むいなしなであるるの世 多好是如是我们六四觀國五之光利用質問于王 佐に日色要好や改造力 はてれる子作度を出て一門ョックを一大者を一下二大 凝 色子的 見 容轉亦臣 さらずこの女子もなりたのか とおみずんチれるから 生るとはなる あるが 是在兵马艺术五世世而已 なかられてもじるのれる とといるのの日々だしていな 者今三便我生進退故云未失道道回回的第三人员的在西面 于夏傳利用為王者之宿也是不是不是一人也不是不好好的 本義六四最近於五故有此象其占為利於朝親仕進 觀九五而獨觀已所行之通塞以為進退占者宜自審 本義我生我之所行也六三居下之上可進可退故不 也〇王輔嗣云居觀之時最近於五觀國之光者也〇 也〇誠齊六三察也以從人九五察人以修己首於其風 追巴西笑不极介名云云笑

はてからんいなんてでき 即次りで死しお後十古の死一 有者的主奏和其政府的學 そろいんではおいなるこ 政をきの本本なるかった である元谷々 中の日の大死 とるかロスカ 見れる五年中間子よくるら 乃在存金布費がいたない 対域となべ をとうしいかれるをめて 自巴所施之善否若反觀諸巴所為而皆君子則可以先九五觀我生君子无谷敬風俗之善惡臣民之從違以見 哲恐而已 答矣 象曰觀國之光尚廣也其志以有祖於主朝馬尚 東日觀我生觀民也於祖界子之送本供方法的這死也也至今直 1日では 1日の日本 本義九五陽剛中正以居尊位其下四陰仰而觀之君 剛中正亦皆君子馬則得无咎也 子之象也故成居此位得此占者當觀己所行必其陽 本義此去子以義言之明人君觀己所行不但一身之 すがふします

西学子らられなる意!人之解所 聖さいていなかで、上九親其生君子无谷上九避五不稱我而稱其猶若此 南人在巴的記之文元两位 モインしゃり 板ひと 成本其下各なから 書かられれ 子人かのる 西からのれらなかです 本者を放弃手の なる至白任の武士上野 石がちいまなると 生活上し 美也差尺面 あんの其の格式した **制影路美闻是** 、傳上九以陽剛之德處於上為下之所觀而不當位是 生觀其所生謂出於已治德葉行義也既為天下所觀 則何以使人觀仰於式是其谷也故當自慎不可以不 賢人君子不在於位而道德為天下所觀仰者也觀其 得失又當觀民德之善否以自省察也 云志未平也〇本義上九陽剛居尊位之上雖不當事 在於位故安然放意无所事也是其志意未得安军故 仰故自觀其所生若皆君子矣則无過咎也尚未君子 四十

第四日三年美人家日觀其生志未平也 在先任方在 四次子ででこ 學好四元元道巴上将元 をちきある一体事物 府正小学一身し去 力力的孝一鬼也林是! 老公不安可去放此的 うていのゆきからからあ 東きられているのを女士 名をはみが 陳打了 志示子 武工兵祭 有主有之異耳〇說我是自觀觀其亦是自觀却從他 人言爾〇胡氏炳文曰五與上皆為下四陰所觀五有 其所為也 本義志未平言雖不得位未可忘戒懼以爲安然无事 位故當觀民以觀我之所為上雖无位亦不敢不自省 任而亦為下所觀故其戒辭略與五同但以我為其小 但曰觀其生而已其下四除則皆以陽為觀而初其最 也〇丘氏行可曰五為親主故曰觀我生上不得位故 遠者也二三則漸近矣四則去陽獨近而獨盡所觀之

てれれとれからしてもはい お前島安夫からてん

好的艺艺 山のを武宗と好由してなかし午後した珍れ及言に私与之他以武宗 た他のれると名中ならいか上れしだってかけるえなうなれかれる区中 周易傳義補疑卷之三終 明八年任が仰記らる西南一日子るとある出来 むいをててなえまたうのややロえなるこかのこれの消かと大きると 四次九天子、名、特必出場、京湖老太五上二天唐田更子无在之天子方 明年著の現在以上人多更よく都他的几五中日立上群形的之次上於圣人本的 美豈非觀之道利近而不利遠故耶